

CVM を用いた電気自動車の持つ環境価値に関する研究

平成 23 年 2 月

伊藤 達哉

要旨

目的 近年、世界各国で温暖化問題が取り上げられるようになってきている。その最たる要因として挙げられるのが二酸化炭素である。さらに、現在の我が国の二酸化炭素排出量の部門別構成割合を見てみると、運輸部門では自動車輸送からの排出割合が大きくなっている。そこで、テレビ等で電気自動車という単語を目にすることが増えてきた昨今、この電気自動車の普及促進に焦点を当てて、電気自動車の持つ価値を評価する。

方法 電気自動車の購入を検討する際には購入費用だけでなく、電気自動車の持つ環境価値や希少性などの様々な項目が挙げられると考えられ、またどの項目をどれほど重視するかについては個人によって大きく差が生じる。そこで、住民アンケートを行う CVM（仮想市場評価法）を用いて電気自動車の持つ環境価値について推定を行う。

特徴 住民アンケートを用いる CVM は対象となるものを金銭的に価値評価することが出来る。したがって、CVM を適用し電気自動車の価値を評価することにより、購入希望者と非購入希望者双方の意見を取り入れた推定が可能になると考えられる。

結果 解析結果は一台当たり 159 万円となり、集計すると 2,563 億円となった。一見高いように思われるこの評価額も、自動車の市場価格より初期提示額が高いためと考えられる。エコカー補助金政策と比較をした結果を見てもわかるとおり、補助金を用いた普及促進ではなく、更なる電気自動車の向上やインフラの整備等をしていくべきであると思われる。

指導教官 高瀬 達夫 准教授